

# 城郭だより

日本城郭史学会会報

〒766-8621 東京都板橋区  
板橋北部郵便局私書箱第50号  
TEL 03-3396-1904  
FAX 03-3396-1904  
発行者 西ヶ谷恭弘

第126号 令和6年7月

## 福井城 坤櫓復元基本計画

福井城の坤櫓などの復元について助言する福井城坤櫓等復元整備検討委員会の二回目が開催され、福井県が、福井城坤櫓の復元について、建てられたときと同じ木造で復元、三重三階の建物にするなど基本設計の概要を示した。坤櫓は福井城の石垣の南西角に



坤櫓の復元予想図

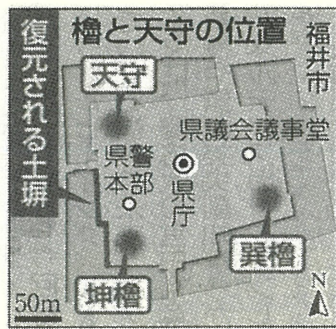
あった。しかし、南東角の巽櫓とともに明治時代に撤去された。県は二〇二三年から史料や文献調査を実施してきており、それを踏まえ復元を目指している。基本方針では、史実に基づき外観の規模や構造は可能な限り復元し、内部は柱割を基本に、バリアフリー化についても史実に基づく復元を逸脱しない範囲で実施するとしている。

基本設計は古い写真が残る巽櫓を基に実施。二つの櫓は三重五階の構造だったと推定されているが、建築基準法を満たすうえで木造とするため、三重三階で高さ十六メートルとしたという。ただし、三階部分は非公開にする予定。公開すると鉄筋コンクリートな

どの不燃材料を使った耐火構造にする必要があるためだ。基礎構造については石垣に坤櫓の重さがかけないようにするために杭を検討するとしている。また、復元する坤櫓や土塀を覆う瓦についてはすべてを当時と同じ笏谷石(しゃくくだにいし)にするのは困難だという。笏谷石の採掘が終了しておりストックが限られているためだ。

バリアフリー対策としては、石垣の上の櫓に上がるために階段とスロープ、櫓内の二階にある移動手段として階段とエレベーター設置の案などが示された。委員からは「櫓の内部には本来五階構造であったと分かる工夫がほしい」、「櫓の瓦の一部にでも笏谷石を使えないか」などの意見が出たという。検討委員会では二〇二四年度にも第三回の合会を開く予定。復元する坤櫓の完成時期は現在のところ未定である。

(日刊県民福井新聞  
二〇二四年三月二日記事より)



### 日本城郭史学会 催物・見学会・セミナー案内

八月セミナー

#### 「史跡小田原城跡御用米曲輪における調査成果について」

御用米曲輪では、史跡整備を目的とした発掘調査を実施しています。今回は、これまでの調査成果からみえる江戸時代・戦国時代の御用米曲輪のすがたについてご紹介いたします。

会場 板橋区立志村グリーンホール三階教室1A  
発表 加藤 夏姫氏(小田原市役所文化財課)

九月見学会

#### 江戸城外堀周辺石垣遺構等見学会

江戸城外堀と現在の外堀通りとは必ずしも一致しない。特に虎ノ門周辺は明確にわかる。本来外堀のあった場所とその周辺に残る石垣など、意外に気付かない江戸城外堀周辺に残る石垣等遺構を巡る。

集合日 9月28日(土) 午後0時30分  
集合場所 JR中央線飯田橋駅西口改札口前  
案内講師 大橋 健一氏(史学会委員)

コース 牛込見附跡(阿波守内)→刻印石垣等→地下鉄市ヶ谷駅構内「江戸城歴史散歩コーナー」(地下鉄移動)→雉子橋発掘石垣復元等→赤坂見附跡「空の広場」内石垣など→溜池跡→虎ノ門見附周辺石垣(6箇所)→虎ノ門見附のあった場所、旧外堀と外堀通りの位置の違い)→伊達政宗終焉の地(旧仙台藩上屋敷跡、日比谷公園内)→解散

十一月見学会

#### 下野中南部の城(壬生城ほか)を訪ねる

月日 11月30日(土) 午前10時30分(解散は午後5時予定)  
集合場所 JR宇都宮線石橋駅西口  
参加費 会員一〇〇〇円、会員外一五〇〇円(別途バス代)  
案内講師 笹崎 明氏(史学会委員)  
\*犬飼城・千波城・羽生田城・壬生城等を訪ねる予定です。現地では貸切バスを利用予定です(別途貸切バス代四〇〇〇円程度)  
\*コース等詳細は、次号(10月)にてご案内いたします。  
参加費 8ヶ月共に会員一〇〇〇円、会員外一五〇〇円